

住民主体のまちづくり

No.26 2016. 1

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 車尾まちづくり講演会

去る11月22日（日）午後1時半から車尾小学校体育館で、多く住民に地域づくりについて関心を高める取り組みとして、講演会を実施しました。講師は、かねてより、米子市地域づくりモデル事業の指導助言者であり、地域づくり研究の第一人者である首都大学東京大学院社会科学研究科の大杉 覚 教授です。



講演のテーマは「これからの地域づくりとまちづくり推進会議の意義」です。

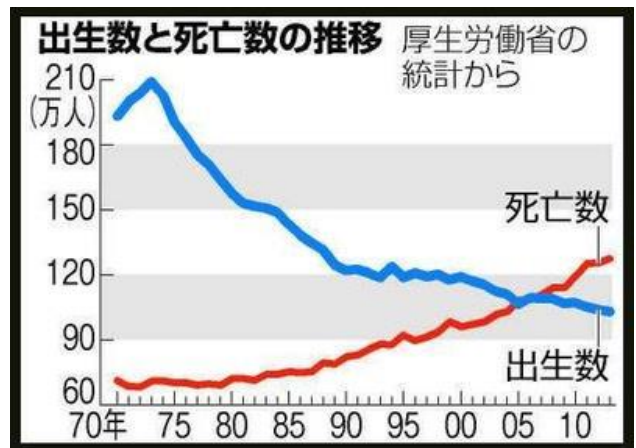
まず教授から、地域活動の全国共通した課題として上位3つは、

課 題	割合
役員のなり手がなく、いつも同じ人が活動している。	31%
若い世代の自治会活動参加が少ない。	26%
高齢化が進んでおり活動に支障がある。	20%

です。

人口減少や少子高齢化の中、「焼酎づくり」、「お年寄りにボーナス」などユニークな地域づくりの取り組みの紹介がありました。

また、明確な将来ビジョン、その背景となる人口動態の把握が必要であると力説されました。



さらに地域づくりの視点としての「住民一人ひとりの活動が相互に作用し、思いがけない高度な成果が生まれていくこと」を念頭に、「強み」探しからはじめる。

最後に地域づくりで求められる3つの行動として、

キーワード	求められる行動
つくる	創造的な発想を起爆剤とする。「強み」を活かす。
つなぐ	ヒト・モノ・カネ・情報を連携・共有し、他地域との連携をも視野に入れて、社会的に大きな変化をもたらす自発的なヒト・組織・社会の幅広い変革を促す。
つづける	持続可能なまちづくりにしていく。

とまとめられました。

以上で紹介を終わります。

私たち車尾地区住民は、「自発的に個々の事業に取り組む」という「協働」意識を高め、「支え愛」に

よって、元気で活力のある共同体意識を持って暮らす地域の実現を目指していきましょう。



自分たちのまちは 自分たちの力で